

第4回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和4年6月29日（水）

18時～19時30分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

(1) 第3回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 講演会「これからの高校を考える」

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 藤村 裕一 氏

(3) 意見交換

4 その他

次回（第5回）の予定

【日時】 令和4年8月22日（月） 18時～19時30分

【会場】 長野県伊那合同庁舎 講堂

【内容】 新校の学びのイメージについての意見交換

5 閉 会

上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員

○印 令和4年6月からの構成員

区分	氏名	所属等	役職等
自治体	山田 勝己	辰野町	副町長
	浦野 邦衛	箕輪町	副町長
	田中 俊彦	南箕輪村	副村長
	小平 操	駒ヶ根市	副市長
	笠原 千俊	伊那市教育委員会	教育長
	加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表
	漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
	堀井 一政	南箕輪村商工会	工業部会長
	松井 良介	駒ヶ根商工会議所	副会頭
	向山 賢悟	伊那商工会議所	副会頭
同窓会	篠平 良平	辰野高等学校同窓会	会長
	小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
	清水 満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
	鈴木 正志	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
P T A	武田 香代	辰野高等学校 P T A	会長
	○小澤 七重	箕輪進修高等学校 P T A	会長
	井口 正宏	上伊那農業高等学校 P T A	会長
	○小池美香子	駒ヶ根工業高等学校 P T A	副会長
学校関係者	根橋 健治	上伊那中学校長会（伊那市立西箕輪中学校）	副会長
	塩澤 秀彦	上伊那小学校長会（伊那市立長谷小学校）	副会長
学識経験者	松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	准教授
	武久 泰夫	南信工科短期大学校	副校長
地域	竹村浩一郎	上伊那地域振興局	局長
統合対象校 関係者	小口 直喜	辰野高等学校	校長
	小林 敏明	箕輪進修高等学校	校長
	平沢 一	上伊那農業高等学校	校長
	福澤 竜彦	駒ヶ根工業高等学校	校長
	古賀 涼輔	辰野高等学校	生徒会長
	酒井 愛斗	箕輪進修高等学校	生徒会長
	池上 悠月	上伊那農業高等学校	生徒会副会長
	倉澤 拓真	駒ヶ根工業高等学校	生徒会長

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰野	加藤 泰久（教頭） 丸山 末広 吉村 恭弘
箕輪進修	岩田今朝宣（教頭） 田中 俊生
上伊那農業	武藤 穰（教頭） 境 久雄 山下 昌秀 若林 誠司
駒ヶ根工業	谷口 光治（教頭） 竹内 浩一 甕 力 和田 和代

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	山岸 明	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	田中 聡	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第3回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和4年(2022年)4月25日(月) 18時00分~19時40分		
場所	長野県伊那合同庁舎 講堂		
出席 (敬称略)	山田 勝己、浦野 邦衛、田中 俊彦、小平 操、笠原 千俊、加藤 孝志、漆戸 豊徳、堀井 一政、松井 良介、向山 賢悟、篠平 良平、小河 節郎、清水 満、鈴木 正志、武田 香代、江成 明子、井口 正宏、松澤 澄恵、小口 直喜、小林 敏明、平沢 一、福澤 竜彦、根橋 健治、塩沢 秀彦、松島 憲一、武久 泰夫、竹村浩一郎、古賀 涼輔、酒井 愛斗(木村ルカス)、池上 悠月、倉澤 拓真		
欠席 (敬称略)	松井夕起子	傍聴者	16名(報道者5名、オンライン参加も含む)
事務局	学校関係	辰野高校(加藤教頭、丸山教諭、吉村教諭)、箕輪進修高校(岩田教頭、田中教諭)、上伊那農業高校(武藤教頭、境教諭、山下教諭、若林教諭)、駒ヶ根工業高校(谷口教頭、竹内教諭、甕教諭、和田教諭)	
	県教育委員会	山岸主幹指導主事、田中主任指導主事、石井主事	
当日資料	説明資料、各校生徒発表資料		

会議事項

- (1) 資料説明
 - ・第2回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
 - ・今後のスケジュール
- (2) 各校生徒による学校紹介
- (3) 意見交換

構成員から出された主な質問・意見

- 「(2) 各校生徒による学校紹介」についての質問・応答・感想 (→生徒の応答)
- ・辰野高校の商業科が地元から無くなる可能性があることについて、地元の声は聞こえてくるか。
→特にないが、もっと地域の人と関わっていききたい。
 - ・箕輪進修高校の工業科には今まで知らなかった色々な専門科目や学び方があり、興味深く思った。
 - ・上伊那農業高校で2年からコースを選択できることについて、どのように考えているか。
→1年次の体験は、コース選択を後悔しないための材料となるので、このシステムは新校で残してほしい。
 - ・駒ヶ根工業高校の資格取得への取組等、充実した高校生活を送っていることがわかった。多くの卒業生が地元を支えていることも理解できた。
- 「(3) 意見交換」時に出された意見
- ・各校の発表を聞いて、各校の良さや多様な専門の学びを新校に集約することは難しいのではないかと。
 - ・農業の6次産業化のように、「農・工・商」のカテゴリーを超えた横断的な学びもあるのではないかと。
 - ・どの高校も「地域と密着した学び」と「地域を担う人材の育成」に取り組んでいて、それは大切。しかし一度は地元を離れて他の世界を経験し、視野を広げる教育があってもよいのではないかと。
 - ・伊那谷全体の人口が減少していくのは事実。どんな高校が必要なのか、地域の声を聴いて考えていかなければならないのではないかと。
 - ・農林業を含めた伊那谷全体の産業界の課題は、どのように人材を育てていくかということ。産業界の意見も聞いて、これを担う高校の再編を考えてほしい。

今後の検討事項

◎有識者による講演を予定。また、産業界や生徒からアンケートを実施し、新校の学びのイメージを立案していく。

その他

【次回】 日時：令和4年(2022年)6月中~下旬 18時~19時30分
 場所：長野県伊那合同庁舎 講堂
 内容：有識者による講演会等

講師紹介

1 職・氏名

国立大学法人 鳴門教育大学
大学院 学校教育研究科 教授
教員養成DX推進機構長
ふじむら ゆういち
藤 村 裕 一



2 略歴・主な役職・活動等

公立学校教員、行政職、東京工業大学大学院社会理工学研究科内地研究員等を経て現職。

首相官邸の「教育再生実行会議」初等中等教育WG委員、「デジタル化タスクフォース」委員として、今後の日本の教育改革の在り方について大所高所から検討を進め、多い時は月2、3回ペースで文部科学大臣らと今後の教育の在り方について協議してきた。

高校教育関係では、広島県の依頼で全寮制グローバルリーダー育成県立中等教育学校「広島叡智学園」の設立や、札幌旭丘高校の単位制高校化、宮崎県の専門高校改革・学科間連携の助言、岡山県立高校の次世代型教育の助言、各県のスーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールの助言等をしてきた。

文部科学省では、「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」の委員や「就学援助事務システム標準化検討委員会座長、教育DXを検討する「教育データの利活用に関する有識者会議」座長代理など、文部科学省・総務省・経済産業省・特許庁・NHK等で数多くの教育の改革・教育の情報化関連委員会で、数多くの座長・座長代理・委員を務めている。

自身体においては、北海道から沖縄県まで全国各地の都道府県教育委員会・市町村教育委員会の教育改革、教育振興基本計画の策定、教育の情報化・情報教育、授業改善、生徒指導改善等の助言に入っている。秋田県教育委員会の教育改善・学力向上マニュアル改訂の助言に2021年度は20回入り、2022年度も12回入ることになっている。